

白山市PTA連合会との意見交換会で寄せられた意見（令和5年9月協議）

No	白山市PTA連合会からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	<p><u>小・中学校の校区割りについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使われていない教室があり有効活用されていない学校もある一方、児童数がかかなり多くなっている地区もあり、バランスを考えた校区割りが必要だ。議会が実態等を理解し、見直しについてのアプローチをしてほしい。</li> <li>・学校の児童数のバランスを取るためにスクールバス等を使い、地区を超えて遠くのエリアからも通えるようにしてはどうか。また、小・中学生はめぐーるを乗り放題にし、通学にも利用してもらえばどうか。</li> <li>・広陽小学校が周辺の住宅開発によって手狭になり、今後も増加傾向にあるので、知気寺町のどこかで分割して明光小に行くなどの検討が必要ではないか。</li> </ul>	<p>小・中学校の校区割りについては、児童数の問題と、通学に係る距離や時間、通学の方法、通学路の安全性、地域の実情などを総合的に勘案することが必要であり、慎重に見直すことが重要と考えています。1つの町内会を分割して2つの学校を指定することは、子供会を含む町内会の活動や、地域での見守り、児童・生徒の社会生活にも影響を与えるため、現在は考えていません。町内会が新たに設立され、別の学校を指定する方法について検討することは考えられますが、新しい町内会の設立については地元の総意が必要となります。</p> <p>なお、めぐーるにつきましては、登下校のスクールバスのない白嶺中学校の土日の部活では、現在無料で乗ってもらっています。今後必要があれば、担当課と協議したいと考えています。</p>
2	<p><u>不登校の子どもたちの居場所づくりについて</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスになじめない、先生が嫌いなどで不登校になり、学校での居場所確保が困難である。少しでも学校に行けるような居場所をつくってほしい。</li> <li>・コロナが減ってきているが、休む子が多い。白山市としても不登校の子が取り残されないようなきちんとした教育が必要なのではないか。</li> <li>・先生が忙しいことで、生徒のフォローができていない場合があるのではないか。白山市として、先生を含めて対応が必要なのではないか。</li> <li>・現在は、GIGAスクール構想などのオンライン学習やフリースクールなど、勉強の形も多様化している。不登校は良くないとするのではなく、様々な勉強の仕方興味のあるところを伸ばしていく</li> </ul>	<p>各学校では、教室に入りづらい児童・生徒に対しては、別室での対応も行っています。中学校では相談員を派遣して対応もしています。学校に入ることに抵抗のある子には、市の教育センターのふれあい教室を紹介するなど、児童・生徒の居場所づくりに努めています。</p> <p>学校に来られない児童・生徒は、保護者との協力の下、取り残されないように授業配信等を行っています。また、家庭訪問や放課後のほかの児童・生徒がいない時間に登校して、担任の先生と一緒に学習を行ったりもしています。</p> <p>児童・生徒のフォローについては、担任</p>

	<p>ことが必要なのではないかと。クラブや部活動、eスポーツ等にも興味を持ってもらい、子供が安心して行けるような居場所をつくってあげるのもいいのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A役員に不登校の子の親を誘ったところ、先生との距離感も縮まり、いろいろな相談ができるようになったというメリットがあった。児童だけではなく親の居場所づくりも大切なのではないかと。</li> </ul>	<p>1人が行うのではなく、学年の先生や顧問の先生、教育相談の担当、養護教諭、スクールカウンセラーなどが一つのチームとなって複数で対応を行っています。</p> <p>不登校については、教育機会確保法にもあるとおり、無理な登校はかえって状況を悪化させる懸念もあるため、不登校児童・生徒の休養の必要性が認められています。また、支援に際しては、登校という結果のみを目標にするのではなく、児童・生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があります。各学校においては、本人、保護者の思いに寄り添うことを大切に、オンラインでの学習や放課後登校での懇談、部活動からの登校など、個別に対応を行っています。</p> <p>昨年度より保護者に配布している教育相談リーフレット「お子さんのことで悩んでいる方へ」には、1人で抱え込むことなく、学校をはじめとしたサポート機関に相談してくださいと、市の教育センターや子ども総合相談室、発達相談センターに加え、放課後デイサービス、フリースクールの紹介も行っていきます。市の教育センターでは年に数回、親の会を開催し、各家庭のつながりや情報交換なども行っていきます。</p>
3	<p>小・中学校から P T A に対し、不登校の人数や傾向などの情報は聞かされないのが P T A としては認識していないが、個別にいろいろなところから情報は得ている。</p>	<p>各学校では単位 P T A に対して、不登校を含め、学校の現状や対策について話し合われているのが現状です。市全体の人数等の情報については個人情報にも関わってくるので、これまでも公表は行っていません。</p>